

巻頭言

会長 川村 くに



社会情勢は、まだ混沌としたまま、新しい千年が始まろうとしています。大阪IIゾンタクラブは21世紀に向けて大きく躍動したいと思います。

まず、ゾンタスピリットの「誠実と奉仕」に基づいて奉仕活動を第一に考えなければなりません。各委員会を開催して奉仕目標が決められました。

国際的には、今想像以上の人々が苦しんでいるドメスティックバイオレンスを撲滅するためのZISVAWの勉強と如何に支援するかを考える。アメリカイヤハートをよく理解し支援したい。フォスタープランを続ける。スリランカの子供達は大きくなり巣立ったので、今年からハイチの子供達を支援する。地域的には、長期ビジョンをもって奉仕したい。ライトハウスの訪問、寄付を続ける。白もくれんを大阪市へ毎年贈る。

ドナーション委員会からは、アイバンク・ヒアリングインターナショナル、大阪女性基金への寄付が決められました。

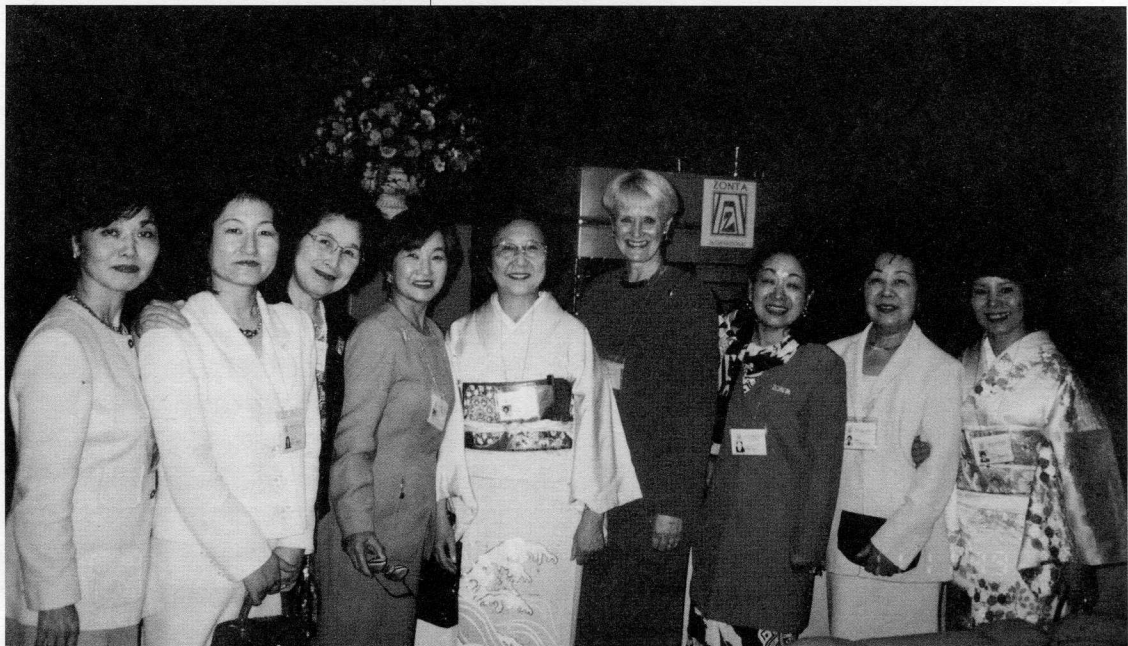
11月28日にはチャリティイベントを開催しました。

新進気鋭のホルン奏者阿倍慎様、会員今井壽子さんのお嬢様今井千穂様に出演いただいて、ザ・フェニックスホールに於いて「ホルンによるクラシックとボサノバの午後」を

皆様に楽しんでいただきました。斬新で心なごむ音楽会だったと好評をいただきました。

2001年にはエリアミーティングのホストクラブを務めなければなりません。初代会長の西さんを委員長にエリアミーティング実行委員会を結成して準備を進めています。こういう時に、すぐ一致団結するのが私達のクラブのいい所です。皆が身を乗り出しているいろいろな提案していただきますのが、とっても頼もしく、嬉しい限りです。ご出席の皆様が満足していただけるよう努力する所存でございます。会長という重職をおひきうけて、はや6ヶ月。いやまだ6ヶ月の感があります。皆様に支えられて、今日まで来れました。まだ先の方が永いのですが、どうぞ宜しくお願い致します。

横浜地区大会 全体会議会場にて



11月11日 開会式

地区大会に参加して

平成11年11月11日に横浜みなとみらいのパシフィコ横浜メインホールにて開催されました。ガバナー原菊子様の開会宣言、フラッグパレード、国歌吹奏、ゾンタオフィシャルソング斉唱、来賓の紹介と続き、ガバナー原様の挨拶では、「21世紀にむけて、子孫に住みやすい平和な地球環境を残さなければならない。26地区のゾンシャンが、これまでの友好を確認しあい、新しい友好を築き、ゾンタの理念、信条調和のうちに繁栄できることを念願します」と述べられた。来賓の祝辞では神奈川県知事岡崎氏、横浜市長高秀氏両名のゾンタに対する厚情と今後の期待の言葉を賜りました。次にバルセラ国際ゾンタ会長より「多くが語り、吟味し、ゾンタの奉仕の新しい千年に向けて、世界の女性の地位を高

中塚 淳子



める為に活動し、主張しましょう」と挨拶されました。次に26地区YWP A 授与式と祝電披露に続き、小和田恆氏（日本国際問題研究所理事長、外務省顧問）の基調講演では「21世紀の東アジア」を拝聴致しました。21世紀では、国々が個別に行動するのではなく、アジアの国々が一つに手をつないで、あらゆる問題に協力しあって進んで行かねばならないと述べられました。そして閉会の辞をもって、格調高く、なごやかな内に開会式は終了致しました。その後、歓迎レセプション会場に移動し、皇后陛下の御行啓を賜り感激の一日を過ごす事が出来ました。

基調講演を拝聴して

福本 敏子



日本国際問題研究所理事長、外務省顧問、前国際連合日本政府常駐代表特命全権大使であります小和田恆先生が基調講演をしてくださいました。先生は“21世紀の東アジアの将来像と市民社会の役割”をテーマにお話くださいました。以下に要旨をまとめさせていただきます。

「この10年間は世界的にみて大きな変革の時代であった。東西冷戦時代の象徴であったベルリンの壁も旧ソ連邦も崩壊し、現在はアメリカ一国のUNIPOLAR WORLDとなっている。世界をみると3つの問題点が考えられる。テロ、環境問題、経済問題の3点である。このような問題を抱えた世界では世界秩序の中での積極的な協力体制が求められている。これらの事は我々の属する東アジアにおいても同様である。これらの問題は1国だけでは解決できない大きな問題である。アジアの未来を占う要因としては3つの要因が考えられる。第1は経済的達成である。東アジアの経済成長はこの10年間で約3倍に増加した。2番目は冷戦終結による影響である。20世紀の戦争の時代には多くの国が独立し

た。3番目は国際化である。現在は危機の概念が変化し、危機管理が国際間というより市民社会の中で論じられねばならなくなっている。

では、市民社会が安全を保つためにはどうすればいいのだろうか。政府に全てを委ねることができないなら市民社会運動が大きな役割を持つことになるであろう。その為には市民運動は社会の総意を反映したものでなければならない。また、市民運動は主張する事に対し責任を持たねばならない。つまり、市民運動は国際的に運動の合法性と自己責任を訴えていかねばならない。政府と有機的関係を持ち社会正義を実行していくなら長い歴史を持つ国際ゾンタは21世紀の社会において指導的役割を担えると思われる」と述べられました。

我々ゾンシャンも奉仕活動を行うにあたり常に国際的視野を持ち、社会の人々の賛同を得られる活動をしななければならないと思いました。そして、その結果に対し責任を持たねばならないと思いました。

歓迎レセプションに出席して

西 麗子



小和田恆先生の素晴らしいご講演の余韻を心に温めながら、会場の横浜ロイヤルパークホテルニッコー宴会棟3F鳳翔の間へ、急ぎました。美智子妃殿下のご臨席を賜るため、遅刻すると、会場に入れません。台湾、韓国、日本の約500名のゾンシャンは皆、身分証明書を首からぶら下げ、小さいパーティバッグだけで、カメラも持ち込めません。お待ちすること約1時間、妃殿下がお見えになり、18時30分より開宴になりました。五神嘉子大会委員長が開会宣言をされ、針生ADのご挨拶があり、ピアニストの山岡優子先生（横浜ゾンタクラブ）が、モーツァルト ピアソナタ第10番ハ長調KV330（萩原謡子会員調べ）を大変優雅に、魅力的に演奏されました。その後、原ガバナーのお孫さんの

あかりちゃんが妃殿下に、花束を贈られました。妃殿下は優しくあかりちゃんの耳元で何か囁かれ、あかりちゃんは、きちんとcoutesyをして、微笑ましい光景でした。横浜市の藤井紀代子助役が乾杯の挨拶をされ、和やかな雰囲気の中で、歓談の輪が広がりました。美味しいお食事の後で、妃殿下が各テーブルを廻られました。大阪IIのメンバーも中塚会員、田中淑子会員、私を始め、気高く美しい妃殿下にお声を掛けて戴いたり、握手をして戴いたりして、少女に帰った様は大はしゃぎでした。大感激の一日でした。ご尽力戴いた、原ガバナーを始め、ホストエリア、ホストクラブの皆様にお礼申しあげます。



11月12日

全体会議

牛田 三千子



11月12日午前9時、ゾンシャンは前日と気分を変え、パシフィコ横浜会議室に集りました。前日はオープニングセレモニーでの小和田恆氏の格調高い基調講演、続いて美智子皇后御臨席のレセプションと、いつの間にかすっかりミーハー気分。握手していただいたとかお話が出来たとか、一同興奮のうちに終わりました。一夜明け、その余韻がいささか残るものの皆、服装も気持ちも切り替えてゾンタ26地区の第一日目の全体会議に臨みました。

まず、議長の前ガバナーがヘッドテーブルを紹介します。次に登録委員会からの報告、クレデンシャル委員会からの報告、大会プログラムの承認と議事は順調に進んでいきます。これらはすべて公式言語で行われ、英語の堪能な人以外は同時通訳イヤホンをつけて内容を知ることになります。途中、議場から通訳付きで英語以外の母国語による発言を認めてほしいとの意見があり、それについて賛成、反対両方の意見が出されました。採決により、母国語動議は否決されましたが、複数の言語にまたがる国が集った組織というのは、その言語の取扱いに十分慎重にしなければいけないと感じました。

続いて、地区役員の報告が英語でなされました。まず、原ガバナーが感謝の気持ちを述べられ、パリで採択された透明性、調和、創造性というゾンタの精神の重要性を強調されました。副ガバナー、会計、各エリアディレクターの報告が続きましたが、伊藤エリア4ディレクターの報告の際の同時通

訳がなぜか入っていないことがわかり、議場は混乱しました。結局、急いで通訳付きで繰り返されましたが、ここでも言語を巡ってトラブルがあり、国際会議の難しさを感じました。しかし前日の小和田氏の基調講演から、全体会議まで多くのことを考えさせられた実りある勉強会であったと思います。大阪Ⅱゾンタクラブより参加した11名もゾンタについての理解をさらに深めることのできた地区大会でした。



ワークショップ

久岡 眞佐代



「女性の地位向上に向けて」

「女性に対する暴力」と「女性の健康で幸福な環境を守ろう」という2つのテーマで、各パネリストより各国内での取り組みについて報告がありました。

台湾では、1997年以降、「性的暴行の保護法」「家庭内暴力防止法」が制定され、虐待された女性や子供を支援するために警察、行政、司法、医療職員などが相互に協力する制度を設立しようとしているとのこと。

儒教の影響で家族の絆が強い韓国でも、幼少時代から性的虐待を受け続けた女性が加害者を殺害するという事件がきっかけとなって、1994年1月、性的犯罪の処罰と被害者保護の条例が制定されたということです。

環境問題については、H活性剤（自然物質から抽出）には、生ごみ等からでる有害な汚染物質を分解消臭し、下水を浄化する効果が認められており、将来は湖や川などを浄化する可能性もあるという研究発表がありました。大いに期待したいところです。

最後に、北村春江芦屋市長より、芦屋市は、環境基本条例を全面改正し、自然と人間が共生する、環境への負荷の少ない社会（環境適合型社会）の形成に取り組んでいるという報

告がありました。

さて、日本には女性に対する暴力禁止を直接に規定した法律はありませんが、刑事事件として傷害罪などで告訴、民事事件で慰謝料請求、今後も暴力を振られる危険がある場合は職場や自宅の半径〇〇メートル以内に近づいてはいけないという裁判所の判決や仮処分決定を得ることができます。歌舞伎俳優の市川猿之助さんがストーカーに狙われた事件では、200メートル以内に近づいてはいけないという判決でした。200メートルは新幹線とほぼ同じ長さであり、同じ新幹線に乗れないということです。

しかし、加害者を一生刑務所に入れることは不可能であり、夫の妻への暴力は「犬も食わない夫婦喧嘩」、親の子供への暴力は「親権に基づく躰」の範囲内として処理される危険もあり、裁判で勝訴するにはそれなりの証拠と時間が必要です。そこで、暴力から女性を保護するために最も必要なことは、女性が虐待を受けたら直ぐに安心して逃げられるよう、二度と連れ戻されることがないように、一時的な避難所（シェルター）を質的量的に充実させることであり、そのためにゾンタとして、なお一層の援助が求められていると思います。

アジアナイトに参加して

丸山 優子



1999年11月13日（土）午後18：00よりパシフィコ横浜501-502にてアジアナイトが開催され川村会長と二人で参加いたしました。台湾韓国のゾンシャンが大変美しい民族衣装で参加され大会委員長五神嘉子の開宴の挨拶に始

まり、決議事項の承認をガバナー原菊子氏、乾杯を直前ガバナーAmy Laiがおこないました。みなとみらいのゾンシャンが率いるロス・ソリタス・デ・トーキョーによる音楽とともにディナーが始まりました。ディナーとともにKim Mai-jaのダンス、台湾のゾンシャンによるファッションショー「明日の創造」と続き特別出演の欧陽菲菲のすばらしい歌で盛り上がりました。2001年の地区大会への招待を副ガバナーYun Sook Leeが述べられ最後に全員でふるさとを合唱し、次回の再会を約束してその幕を閉じました。





ある日突然原稿のご依頼があり、つたないペンをとるに至りました。平々凡々と日々を怠惰に送っておりますゆえ、いざ書くことがございません。仕方ありませんので、わたしの日常をつらつらと書き連ねてごまかしでマスをうめさせていただきます。皆様の貴重なお時間と紙面を割きますことを大変恐縮に思います。

これが一番書き易いので、仕事について書きます。わたしは今、精神病院に勤めております。そうお聞きになると、皆様大なり小なり何らかの偏見をお持ちかもしれません。しかし、最近の精神病院事情はずいぶん変貌を遂げているのです。

眠れない、イライラする、何となく気分が沈む、食欲がない等々の症状はどなたでも経験されるもので、日常的な悩みとも言えるでしょう。しかしそれゆえに誰に相談することもなく、人知れず悶々と寝苦しい夜を送っておられる方も多いのではないかと思います。これまでは、上記のような症状で精神科の門をたたくのはなかなかちゅうちょされたものですが、最近では比較的気軽に受診されるようになりました。その理由の一つとして、マスメディアを通じて世間に広く情報が行きわたるようになったことが挙げられるでしょう。またそれと同時に、社会全般的に、日常的なストレスにさらされる機会が多くなったという現実も否定できません。今の時代は、社会そのものの機構、家庭のあり方、個人の価値観、そんなものがどんどん変遷していております。それらに簡単に追従してゆくことができれば問題はないのですが、そうしきれなくて生じる歪みが、人により様々な症状として現われてきているのではないのでしょうか。どちらにせよ、特別視せず精神科医療と上手く付き合ってくださいれば、少しでも楽に生活を送ることができるようになる方も多いのではないかと思います。

現在の勤務先について書きます。この数年の間に病棟の新築、改築を重ね、院内各所の美化、整備に力を入れ、非常に明るく開放的な治療環境になっております。植栽、花壇の手入れはかなりまめにおこなっており、常時色鮮やかな花々が咲き乱れているさまはほっと心ませるものです。それは、些細なことかもしれませんが、病院という陰気な消毒薬の臭いのするイメージを持っておられる方にも、気軽に受診していただける一つの大切な要素だと思っています。鉄格子のはまった窓の小さな暗い病室はこれからどんどんなくなってゆくことでしょう。周辺の色んなものが変わってゆくなか、わたしは今の仕事が好きですし、世の中の流れに行きつ戻りつしながらずっと続けてゆければありがたいことだと思っています。ここまでお読みになって、一体どこの病院に勤めているのかと思われたかもしれません。でも病院の宣伝が目的ではありませんので、特別記しません。お問い合わせがあれば、よろこんで、できることであれば対応させていただきます。

ところで話は変わりますが、1998年9月、ニューカレドニアにて市長立会いのもと結婚式を挙げました。式は結婚誓約書にサインをし、指輪を交換するだけでしたので、あっさり20分位で済みましたが、サインをしながら、“結婚”という形の契約を結んでいるような気になりました。契約にはそれに伴う義務と責任が生じるわけで、契約不履行とならないように努力する所存でございます。とにもかくにも、こんな妻を寛容？ 忍容？ 許容してくれている夫にはいつも感謝しています。

何とかここまで文字をかせぎました。おつき合いいただきまして、ありがとうございました。





今年のチャリティー・イベントは11月28日（日）ザ・フェニックスホールでホルンの演奏会を開催することに決まり、音楽の分野にいる私が企画を担当しました。

出演はホルン 阿部慎一、ピアノ 今井千穂。演奏者との話し合いでプログラムの前半はクラシック、後半はボサノバということになり、演奏会のタイトルを「ホルンによるクラシックとボサノバの午後」にしました。ホルンを長時間吹き続けるのは大変ということで、阿部氏の希望により1曲ピアノソロを入れることになりました。プログラムは次のとおりに決定しました。

ベートーベン	ホルン・ソナタ ヘ長調 作品17
デュカ	ヴィラネル (ホルンとピアノのための)
ハイドン	ホルン協奏曲 第2番 二長調
*	
ピアソラ	アディオス・ノニーノ (ピアノ ソロ)
[ボサノバ]	イパネマの娘
	いそしぎ
	ジンジ
	コルコバード
	ワン・ノート・サンバ

演奏会当日はザ・フェニックスホール開業以来初めての盲導犬一頭というお客様も交え、ほぼ満席の盛況の中で始まりました。前半のベートーベンのホルン・ソナタ、デュカのヴィラネル（ヴィラネルとは田舎の歌、田舎の舞曲風の器楽曲）の一部指定箇所、ハイドンの協奏曲ではバロック時代の楽器であるナチュラル・ホルンを使用しました。これはちょうどプログラムの話し合いをしている時に、阿部氏がナチュラル・ホルンを製作依頼中ということを知り、それは興味深いと思いお願いしたものです。以上のように前半は格調高いクラシック作品で、まとまった演奏でした。

後半はまずピアノ ソロでピアソラのタンゴ、アディオス・ノニーノでした。ピアソラは最近クラシックの演奏家にとりあげられることも多く、とても人気の作曲家であり、バンドネオン奏者でもあります。この曲はもともとピアソラのバン

ドネオンと彼の楽団のための作品です。演奏されたピアノ ソロ用はピアソラ自身の編曲で、この楽譜は出版されておりませんが、タンゴのピアニストであるポリー・フェルマンさん（前駐日アルゼンチン大使夫人）のご好意により今井千穂がいただいたものです。

ボサノバはおよそ40年前にブラジルで誕生した音楽で、ブラジルのサンバとアメリカのモダン・ジャズの要素がミックスされたものです。ボサノバの創始者のひとりであるアントニオ・カルロス・ジョビンの名曲を中心に5曲演奏されました。1曲めのイパネマの娘が始まると同時に舞台の反響板が上がり出しガラス張りのむこうからビル街が見え、とても都会的なおしゃれな雰囲気になりました。ボサノバは5曲とも阿部氏の希望を取り入れながら今井千穂が編曲したものです。アンコールはユーパーの4つのスケッチより第3曲ザ・バレー（溪谷）でした。クラシックとジャズの両面をもつ美しい曲でした。このように後半はアンコール曲も含めて新しい感覚でまとまりました。

前半のベートーベンとデュカの間でホルンはどういう仕組みで音が出るのか、現代のホルンとナチュラル・ホルンの違いなど阿部氏にわかりやすい説明をお願いしました。ただ説明するだけでは堅苦しいのでホースを吹いてみたらと提案し、水道用のホースと昔ながらの漏斗を用意しておき私の家で吹いてもらったところとても良い音がしたので本番でもお願いしました。当日の説明はとても面白く、ホースでベートーベンのホルン・ソナタの一部を吹いたところ、感嘆の声や笑いも出て皆様に大変喜んでいただけたようでした。格調高い中に楽しい雰囲気もあり演奏会は成功だったと思います。

私事ですがその後、パリでオペラやバレエを鑑賞し、ボルドーではジュリエット・グレコの迫力あるシャンソンを聴いて参りました。ボルドーではホテルのエレベーターが故障し閉じ込められるというおまけも付きましたが、無事帰国しました。





有志によるレクリエーションとして選ばれたのがここ北陸で、一昨年より金沢に転地した私が幹事役をいただいた。暑かった夏も忘れかけた9月11-12日、北陸粟津温泉の熱いドラマを振り返る。

選ばれたお宿は『法師』、ギネスブックにも日本最古の旅館として記載され、養老2年の開業から1300年、46代にわたる歴史をはぐくんだ旅館だった。東京出張だったため一足遅れてわたしは到着、大阪よりサンダーバードで降り立った美女たちはすでにチェックイン。『お連れさんもうお着きです』と案内された部屋の前で一瞬入室をためらう。笑い声がドアから漏れてくる。一段と嬉しさと怖さが増す。久しぶりの対面をして、茶室で一服したあと苔むす庭を徘徊した。いにしへの民もこんなに楽しんだろうか……。それから粟津名物の温泉、露天風呂を堪能した。なにせ自慢は「子宝の湯」。それもそのはず赤面しながらも、しばし露天風呂から離れないゾンシャンもいた（行けばわかる）。夕食も宴会気分、加賀料理を味わった。



長い夜が明けて、翌日ゴルフ組は白山カントリークラブで健康的な時間を過ごし、観光組は北陸の工芸村として観光の名所でもある『ゆのくにの森』と『那谷寺』を歩いた。7棟が国宝の建物で、松尾芭蕉（当時46歳）が「石山の石より白し秋の風」を詠んだといわれる真言宗の名刹『那谷寺』を芭蕉が立ち寄ったのは300年前の8月29日、ここで会う約束の友人の死を知り、こだますほど泣いたと言われている。悲しい歴史しか残らないのは、たぶん普段が楽しいからでしょうと思いつつ一泊二日があつという間の出来事だった。

最後に参加いただいたのは川村くに、西麗子、丸山優子、牛田三千子、幡山玲子、久岡眞佐代、田中茂美、田中淑子さんと鈴鹿有子の9人で、楽しくないわけないのである。

まだまだ北陸をご紹介いたしたく思うと同時に、皆とご一緒に当地を知る機会に恵まれることを期待して、お待ちしております。



大津ゾンタクラブチャーターナイトに出席して

宮本 典子



横浜の地区大会から帰って次の月曜日、11月15日はエリア4の新しいクラブ、大津ゾンタクラブのチャーターナイトでした。私達のクラブからは幡山さんと二人で出席しました。当日3時まで会議がありましたが、うまく快速を乗り継いで、大津には2時間半で行けました（和歌山から！）。琵琶湖湖岸の琵琶湖ホテルは、広々とした視界が開ける新しいホテルで、原ガバナーはじめ、リーLtガバナー、エミーライポストガバナーもいらして、一度帰って仕事をしてまたお会いすると、とても新鮮でなつかしく思われました。皆様は連日で大変だったでしょうけれども。

さて式典、祝賀会は総じてとても、シンプルで、センスがいいものでした。これもみな会長さんをはじめ、メンバーの方々がそれぞれ若くて、芸術関係の仕事をもっておられる方が多くいらしたからかもしれません。例えば、設立経過なども物語風にアレンジされ、楽しませていただきました。かわいいひよこちゃんがマスコットで歓迎してくれ、いろいろなところにさりげなく使われていました。お料理もフランス料理風なのですが、みんなで取り分けるようになっており、自然に会話ができるように演出され、またとてもおいしいものでした。一つ残念だったのは加藤登紀子さんがいら

っしゃることになっていたようですがご用で来られなかったこと、お嬢さんが琵琶湖周航の歌を歌って下さいました。こうして大津や滋賀県にもこれからお訪ねする機会が出来ることもゾンタならではの楽しみと思います。ひよこちゃんが立派なスワンになるのもう間近と思われました。





年数回の移動例会はとても楽しみです。今回の例会は、昨今のイタリアグルメブームにちなんでか、イタリアンレストランで開催されました。中之島界隈は風光明媚です。土佐堀川をのぞみながら、オリーブオイルのよくきいた昼食を楽しみ、当日の議事が進行されました。

例会後は、大阪市立東洋陶磁美術館を訪れました。大阪の都心部に広がる緑と水の空間、中之島公園の、その緑の中に溶け込むように建てられています。近代的な大阪市役所、現在保存修理中の中央公会堂や中之島図書館もたち並んでいます。この美術館は、大阪市が世界的に有名な安宅コレクションを住友21社から寄贈されたことを記念に設立されました。その開館は昭和57年になります。「安宅コレクション」の中国陶磁、韓国陶磁を中心に、現在約2000点があり、この中には2つの国宝と13点の重要文化財が含まれています。最近では新

たに、日本陶磁コレクション並びに韓国陶磁コレクションを展示する新館も加わり、東洋陶磁のコレクションとしては世界第一級の質と量を誇っているそうです。

私達が訪れた時はちょうど韓国陶磁シリーズで朝鮮時代の青花の特別展が催されていました。14世紀から519年間という世界的にみても長期政権のその時代に梅・竹・松の文様、清楚な野草文様、また鹿・亀・魚などの文様が器一杯に絵付けされ描写されています。私は18世紀前半に作られた青花窓絵草花文の面取壺がとても気に入りました。

美術を楽しんだ後は館内の静かな喫茶店でのTea Time。「わあーここは良い所ね」と全員口をそろえてのことば。とてもさわやかな心豊かなひと時でした。

新入会員 自己紹介

楠本 由紀子



仕事だけでなく、そろそろ何かライフワークとなるものを見つけたいなと思っていた時に、偶然、鈴鹿先生からゾンタへのお誘いを受け、面接して下さった宮本先生に感銘を受け入会させて頂きました。大阪Ⅱゾンタクラブの皆様の歯切れのいい行動力と心地良い暖かさに心強さ、頼もしさを感じています。

私は今、(株) ジオン商事でENRICO DOMANIというブランドの企画の仕事をしています。若い感覚の大人の女性の服作りでマーケティング、時代の流れをよみながらすすめていくのですが、人間一人の力は限られたもの。これは服に限らず、どの業界も全て同じだと思いますが仕事を通し若い仲間、多くの関連企業の人達の力を借り、試行錯誤しながら一つずつ人との関わりの中から創り上げていく喜びを味わえる事に幸せを感じています。

今、世の中は不況で大リストラ時代、まして学校を卒業し働く意欲のある若い人達の職場がない時代。回復への的確で早期の対策を心から望むと共に、これを真摯に受け止め、会社での自分のポジションを考え、すべき事をきっちり見極め、次の世代を担ってくれる若手をどんどん前に出していけるようにしていきたいと思うようになりました。

まだまだゾンタの事勉強不足で深く解っていませんが、気負わず無理せず楽しく続けていく事の中から少しずつ学び、自己を磨き私でできることを見つけていきたいと思っています。どうぞ末永くよろしく御指導下さいませよう、お願い致します。

ミレニアム メッセージ

日本刺繍の素敵な先生に出会いました。
今年中かかって、自分の帯を刺繍してみようと夢を見ています。(柿木)

ミレニアム、新年の決意も新たに(毎年登場の早寝早起)今年こそ頑張るぞ。(西)

もっと心穏やかに 優しく 強く 静かな人でいたい。(広石)

世紀をまたぐ節目の年に当たり
自分の生きてきた半世紀の明かしの今を
脚下照顧し、地道な一年を過ごし
新世紀の第一歩としたい。(村山)

ミレニアム。この言葉を聞くと心がわきたつ。
新しい時代への期待なのか、今生きてあることへの喜びなのか。
最初の年、そして最後の年。
目標だった21世紀への時間を大事に過ごしたい。(幡山)

編集後記

ミレニアム元年、Y2K問題も大事にいたらずほっと安心。
新しい千年紀にふさわしいゾンタ活動はどうあるべきか、広報誌を通じて考えて行きたい。(玲)